

## 令和3年度 第4回米沢市SDGs推進協議会 会議録

- 1 日 時 令和4年1月26日（水）午前10時～
- 2 場 所 庁議室及びオンライン会議
- 3 出席委員  
委員 【庁議室】  
副市長（会長）、伊藤優子副会長、安部里美委員、五百川満委員、  
川野敬太郎委員、菅野紀生委員、柴田正孝委員、  
【オンライン出席】  
大和田浩子委員、佐々木恵委員、田畑広志委員、中澤未美子委員、  
以上11名  
（伊藤浩志委員、香坂洋平委員、斎藤美綺委員、須藤英喜委員、  
曾根伸之委員、中川浩一委員、吉田正幸委員、四柳徹也委員は欠席）  
アドバイザー 谷中修吾先生（オンライン出席）  
事務局 政策企画課 課長、課長補佐、企画調整主査、担当

### 4 会議録

#### （1）開会

#### （2）会長あいさつ（要旨）

会 長 委員の皆様、本日もよろしくお願ひします。SDGsについて、ようやく本プラットフォームの概要をお示しできる。忌憚のないご意見をいただきたい。

#### （3）アドバイザーあいさつ（要旨）

アドバイザー 環境省のグッドライフアワードで全国のSDGsに関する最新の取組を表彰しているが、昨年12月に第9回の表彰を行ったので、話題を共有したい。

昨今SDGsで様々な取組が非常に増えている。代表となった環境大臣賞の中で、最優秀賞は太陽光に関するものだった。屋根上の太陽光はこれまでもあった話だが、大規模な形で再生可能エネルギーを利用していくというもの。また、海外の素材を生かしつつ海のごみを資源にする取組があった。

学校の取組も増えていて、小学校や高校、民間企業の様々な取組の技術的な部分も出てくるようになったことが傾向としてある。

一方でNPO部門というものもあり、これまで活動してきた地域の20年、30年選手というか、それこそ環境NPOと言われた時代からずっと行っているような方々も、日の目を浴びている状況があるかと思う。

今、皆さんと一緒にプラットフォームを検討している最中であるが、この米沢に既存のものでも実はSDGsとして非常に評価があり、プラットフォームで掘り拾い上げていく上で、新規で作るよりも実は素晴らしいというようなこともあると思う。

#### (4) 議事 (要旨)

(設置要綱第7条により、会長が議長となり進行)

会 長 それでは議事に入る。議事の円滑な運営にご協力をお願いしたい。

事務局 ((1) SDGs プラットフォーム (案) の概要説明について、前回協議会からの変更部分を中心に資料 1、2-1、2-2 に基づいて説明)

委 員 プラットフォームの対象の部分がややわかりにくいかなと思う。みんなとか一言では駄目なのか。どういった対象が漏れるのか。

もう一点質問だが、市のホームページに掲載するということが、参考までに、市のホームページで今一番見られているものはコロナ関連かもしれないが、市民の皆さんが関心あるコンテンツは、どういう内容のものでアクセス数はどれぐらいあるのか。

事務局 対象について、意見の通り個人の方も団体の方もみんなというようなことになると考えているが、それぞれ個人も企業もどんな方も入っていただくという意味合いでこのような表記にしている。また、学校、企業、金融機関などの方々にも特に入っていただきたいという考えで表記しており、ご理解いただきたい。

ホームページのアクセス数については、やはりコロナ関係のアクセス数が一番多くなっている。また、冬期間は市民バスやバスナビへのアクセスも多くなっている。年末年始にかけてはふるさと納税関係へのアクセスも多くなる。時期に応じてホームページのアクセス数は異なってくる。

SDGs の内容を皆さんに見てもらえるような構成や配置としてほしい。

委 員 資料 1 の最後のページでのプラットフォームとブランド戦略の関係性の図の中で、対象者の中から金融が抜けている。

事務局 修正する。

委 員 上手くまとまっていると思うが、対象のところに行政は入らないのか。今、産学官金と言われている中で、行政も入れた方がよりいいと思う。

資料 1 の 6 ページ④小中高をつないだ学びの場の創出について、高校生が小中学生に、中学生が小学生に教えるというようなイメージだと思うが、幼稚園も入れてはどうか。小さい子から米沢市を上げて SDGs に取り組んでいるところでは、インパクトとしてはいいのかなと個人的に思う。理解度の点で非常に難しく可能かどうかかわからないが、幼稚園も加えてもらえれば、より裾野が広がることになるのではないかな。

事務局 行政を入れるかどうかについては、前向きに検討して最終的な部分で調整をさせていただきたい。

幼稚園を加える提案についても、早めに教育していくことが非常に有効だと考えるので、幼稚園を所管する子育て支援課にも話をしながら、前向きに取り組んでいきたい。

委 員 今、幼稚園を加えてはという意見が出たが、大学も入れた方がいいと思う。大学生の夏季休業中に、小学生に大学へ来てもらい、大学生が小学生に授業をする取組をしているので、大学も入れていただければ。

事務局 大学の方々も含めて大小中高幼稚園と学びの場を創出していく機会を設けていければと思う。

委員 資料1の6ページの①意見交換をする場の設定について、プラットフォームの事業で募集をかけるということは、企業に声掛けする形になると思う。それぞれ意見交換しながら企業アピールに繋がるとは思うが、企業にとってのメリットとは何だとなると、やはり新卒採用など採用面にSDGsを紐づけて、プラットフォームで事業に取り組んでいるという道筋があると企業も参加しやすいと思う。企業同士の意見交換会で新たな事業創出という部分も一つあるとは思うが、目先のメリットとしても、採用に紐付けて大学生や高校生とも意見交換ができれば採用のヒントになり、より企業もコミットしていただけると思うので考えていただきたい。

「わたしのなせばなる」への意見として、最初はどれだけ来るか不安だと思うので、市民がゼロから考えるというより、具体的な取組や誰もが取り組めるようなテーマを提示するとよいのではないか。市民にとっても、できそうだと思うてもらえて、こんなことをやったという事例が集まり、裾野を広げるという意味でも必要かなと思った。

もう一点、これも企業側としての意見になるが、事例を集めた場合に、採用に紐づけられるような企業紹介があった方が、企業側としても就活中の学生たちに露出が増えるため、企業もどんどん応募してくれるのかなと思う。

SDGs=メリットというわけではないが、企業に広く積極的に取り組んでいただけるような道筋が最初の段階である程度示せる方が良くかなと感じた。

事務局 最初の企業の件について、他自治体を見ると、SDGsに申し込んだ企業のホームページにアクセスできるような自治体もある。中には、SDGsとあまり関係がないようなページに繋がっている部分もあった。委員の意見の通り、SDGsの取組を紹介した上で企業の紹介をできるという点で、企業側のメリットがあるのかなと思った。どのような形にするかは今後の工夫次第だと思うが、十分に検討していきたい。

意見交換の場としてこれまで考えていたのは、同じような取組をしている団体を集めるような形であり、企業側と学生との結びつきについては考えていなかった。委員の意見を受けて、そういった考え方もあるのかなと思い、参考にさせていただければと思う。

「わたしのなせばなる」について、どれだけ集まるかは内部でも意見を交わしたところ。まずは応募いただいた方たちの取組をホームページで積極的に紹介していきたい。万が一、多数応募いただくような場合については、カテゴリー化するなど、見やすいホームページを作っていきたいと考えている。

来年度もこの協議会を継続していく中でご相談しながら進めていきたい。

委員 3点ある。1点目は、そもそもSDGsは何故やるかという目的の部分に立ち返ったとき、どこか遠い国のことではなく、米沢も地球や米沢の自然環境を大切に守っていかなければいけないという目的と、企業にとっては自分たちが行っている企業活動に関して、さらにその価値を向上させるという目的の二つがあ

と思う。企業側からの要望になるが、資料1の7ページの①研修会の開催と書かれているので、自然を守るために何か我慢することではなく、事業を伸ばすために新しい分野をどのように開拓していけるか、17のゴールを自分の具体的な事業にどう落とし込んでいけばいいのか、そういう研修会の開催に向けてブランド戦略と一緒に協力してやっていけばいいなと思う。具体的には、例えば旅館業にはこういう17のゴールが当てはまりやすいなどあると思うが、例えば八湯会の中でも、ここはうちにあるここはうちにはないみたいなのところが、その企業にとっての強みだし、もっと言えばアイデンティティーみたいなのところに繋がっていくと思う。個人の活動としても意義があると思う。17ゴールの下には169のターゲット、さらに232項目の指標があると聞いている。大企業はそういう指針に沿ってやれると思うが、米沢にある中小企業の方たちが、どのようにそれを生かせるのかみたいな研修会があると、自分たちの方向性を示されたことになるのではないかなと思う。

昨年、ブランド戦略の方で米沢品質アワードが開催され、受賞団体を見ると、SDGs的視点なしでは考えられないというか、すべてSDGsの活動に繋がっているわけなので、そういう活動が広がっていくように、17ゴールの具体的な研修会というものがあればいいと思う。

2点目は、ホームページとあったが、「わたしのなせばなる」は上杉鷹山を意識したような活動になっていると思うが、今まさに上杉鷹山の取組を17ゴールに落とし込んで表現できる機会かなと思う。どちらかという米沢は、合理的というよりは、情緒的なマーケティングをして現在に至ると思うが、そういう意味では先輩たちが一生懸命繋いでくれたことを振り返るチャンスでもあるし、子供たちがまちに誇りを持てる好機会が来ているのではないかなと思う。そういう目線で、子供たちが教材に使えるようなホームページにすれば、米沢のPRにもなるし、教育的な素材にもなるのではないかな。それが米沢らしき、他の行政にはできないホームページになる。過去を学び、それが今このように繋がっているというのは、すごく説得力があると思うので、可能であればそういう調整、編集をしていただければなと思う。

3点目は、米沢市としてもプロモーションの機会だと思うので、例えばふるさと納税のSDGs商品勉強会とか、カーボンオフセット勉強会みたいなことが、プラットフォームの機能としてあればいいのかなと思う。

事務局

1点目について、今回見える化と謳っている中で、すでに様々な取組を始めている方は多いと思うが、そういうものを積極的に市民の方へ共有できるようにこのプラットフォームを構築していきたい。ある企業で行っている取組が、他の企業に対して様々な形で共有できるようになれば益々まちとして発展していけるかなと考えている。研修会についてもそういった視点も見据えて、市民の皆様にもSDGsの考え方が普及し、裾野を広げるような形で進めていければと思う。

2点目の上杉鷹山の部分については、まさに意見の通りで、市の未来都市計画としては上杉鷹山の考え方をモチーフにしていろんな形で進めていこうと考

えている。改めて振り返る意味でも、今の意見を取り入れて進めていければと  
考えている。

3点目、プロモーションとふるさと納税の話について、今様々な競争相手の  
自治体があり、ふるさと納税の商品を並べるだけではなかなか米沢を選んで  
もらえない時期になっていると感じている。環境に配慮したものを出していく  
など、いかにSDGsに取り組んだものをふるさと納税の返礼品に関連して提供し  
ていくか、これによりふるさと納税に共鳴していただける方も広がるかなと考  
える。いただいた意見も参考にしながら進めていきたい。

副会長 告知や周知という部分で、募集告知をどんな形で考えているのか。たくさ  
んの応募があつてうれしい悲鳴となることが理想だと思うが、幅広い年代から集  
めたいということであれば、若い方には SNS で発信するというのも効果的だと  
は思うが、年齢層の高い方に向けての効果的な周知の方法など、何か対策を考  
えていればお聞きしたい。

また、募集告知が終わって、プラットフォームを作ることが最終目的ではな  
く、できたものを見ていただくことも非常に大事になると思う。番宣みみたいな  
感じになるが、でき上がった後のプロモーションや見てもらう工夫が大事だと  
思う。できた後のプロモーションの工夫への考えについてお聞きしたい。

募集要項について、応募シートの入手方法、例えばデータでダウンロードな  
どができて入手することが可能なのか。また、複数応募したいという方の場合  
は1件につき1枚というような応募になるのか。

事務局 周知方法について、今多くの方に登録いただいている米沢市の SNS や LINE な  
どを活用し、様々な団体にお声掛けしながら、高齢者の方々にも参画いただけ  
るような仕組みを作っていきたいと考えている。

できたものを見ていただく工夫については、今回作るホームページは市のプ  
ロモーション的な意味合いもある。市内外の多くの方に見ていただけるような  
仕組みについて、ご意見をいただきながら進めていきたい。

応募方法については、ダウンロードできる仕組みは整えたい。1件につき1  
枚にするのか1枚に複数載せるかなどの細かい点は今後調整をしてお示しした  
い。

委員 プラットフォームと「わたしのなせばなる」の関係だが、プラットフォーム  
の対象となるように持っていくのか確認したい。プラットフォームのメンバー  
と、なせばなるに応募いただいた方たちの関係性をどうするのか。

また、やる限りは一定の目標値を作った方がいいと思う。目標より多かつた  
場合は嬉しい悲鳴になるが、足りなかった場合は、いかに目標数に近づけてい  
くか、募集の方法や宣伝の仕方など様々あるかと思うが、目標値を作ること  
でこ入れをすることもできるのでは。

事務局 なせばなるに応募していただいた方については、プラットフォームの中に入  
るという形で考えている。応募している時点でこのプラットフォームに参画し  
ているという形だと考えている。

具体的な目標値についてだが、未来都市計画の中で、2023年度までに100件

という目標を掲げているので、それに向けて進めていきたい。やはり、周知することにより市民の皆様にご覧いただくことが一番大事だと考えている。資料の中で説明した様々なメディアや、毎月2回発行している市広報にSDGsの特集記事を組んで、取組を紹介していきたい。高齢の方も広報は読まれると思うので、そういったことを通じてSDGsの考え方を市民の皆様全体に普及できるように進めていきたい。

委員 その場合、募集要項の中に、プラットフォームに対する位置付けをしっかりと伝えて、ご理解いただいた上、参画いただく方がいいかなと思う。

会長 ぜひそういった方向で考えていただきたい。

委員 「わたしのなせばなる」について、取組を紹介した先に何があるのか、メリットなどはあるのだろうかと思う人もいると思う。例えば、募集要項の7.公開の部分について、ただ公開するだけではなくてその先に何があるかを一言入れていただきたい。

また、プラットフォームの具体的な取組の中で、イベントの開催や意見交換する場の設定とあるが、取組を紹介すると、なかには同じような取組をしている方と繋がりたいと思う方がいらっしゃると思う。一緒にコラボしようかという話も出るかもしれないので、同じような活動をしている人たちが繋がるようなイベントを開催して、そこで意見交換をする場を設ける形にできればいいかなと思う。

事務局 ご意見を参考に、皆様が参加してメリットを感じられるような方法の記載を考えたい。

イベント時に意見交換する場の設定について、イベントで様々な紹介をしてくださる方々に対しては、色々な交流が自然と生まれてくるものだと思うが、そういった交流が生まれるような仕掛けづくりを検討していきたい。

事務局 (2) 令和4年度スケジュールについて説明  
(質問・意見なし)

## 5 その他

事務局 (3月開催予定の市民向け研修会の紹介)

(最後に全体を通して、谷中先生よりコメントをいただいた。)

アドバイザー (スライド資料を用いて) 情報共有させていただきたい。

今日の話の中でやはり発信していくところが大きなテーマだと思う。やはりデジタルマーケティングが大きく影響してくると思うが、ウェブやSNSに掲載した時に、パッと見てイケているかどうかポイントになるかなと思う。

行政のホームページはよくあるフォーマットでの表現にどうしてもなりがち。また、SNSで展開する際のサムネイルについても、米沢市のFacebookを見てみたが、記事がどうしても普通の文章のような感じになってしまうと、取組の当事者が見たときに、もう少し魅力的にならないのかなと思ってしまいますので

はと感じた。自分たちも誇りに思える、見た人たちもいいねと思えるような魅力的な発信がシェアの鍵になる。

例として「ソトコト」や「Discover Japan」のように、パッと見て1枚でシェアしたときに、SDGsをしている各団体がキャッチーな画像として出ると嬉しいのではないか。プロモーションの全体像も、どのメディアでどう攻めるかというところはきちんと考えるといいと思う。

先ほど年代の話もあったが、SNSの利用実態も戦略的に見えていて、シェアを見るとどのメディアをどのくらい見られているかは全部データでわかる。Facebookは割と年齢層が高いなとか、Twitterは若年層が見ているとか、LINEは全般的な世代を通じて利用率が高い、インスタグラムは若年層にシェアが大きい、YouTubeは比較的全員見ているなど。こういう傾向を見ると、どのメディアにどう出していくと米沢市内の皆さんに見ていただけるかに参考になると思う。次年度がまさにこういう部分が大事になると思うので、一緒にできたらいいなと思う。

幼稚園の話が出て面白いなと思ったが、幼稚園もさることながら小中高大みんながお互いに教え合うのは全国的なトレンドであるが、やり切っているところはなかなかない。米沢市では全世代交流でお互い教えている、というような状況ができれば素敵だなと思う。

方法論は色々あるが、プラットフォームの活動を通じて、米沢市のSDGsで取り組む方々がどんどん繋がっていくだけで大成功だと私は思っている。冒頭に説明のあったブランド戦略とSDGsとの図で、裾野を広げるというのはSDGsのプラットフォームだと整理されたと思うので、この繋がって楽しく広がっていくということができるだけで、大成功だなと思う。

次年度は対面でできることを楽しみにしている。

## 6 閉会

以上